

## Contents

- ふくおか筑紫フードバンク（大野城市）
- 大豆の「部分浅耕一工程播種」の実証は良好な結果に
- 「みどりの食料システム戦略」研究会(5/17)が開催されました

## ふくおか筑紫フードバンク（大野城市）

～ 子どもたちの居場所づくりと食品ロス削減の取組 ～

地域の子どもの「居場所づくり」につながる「こども食堂」を開催する中、「たくさん頂く寄付食品を他のこども食堂にも届けたい！」という思いからフードバンク活動に発展した同団体。その取組内容や課題を伺いました！



認定NPO法人チャイルドケアセンター(ふくおか筑紫フードバンク事務局)代表理事  
大谷清美様

### どんな活動？

“こども食堂への支援を中心に、寄付食品を配布しています(会員:75団体)。新型コロナで会食型の食事提供が見送られる中、歩みをとめずに、各こども食堂が保存性の高い食品を希望する方に直接配布する取組も支援しています。”

### 寄付の状況は？

“食品の寄付量は2年前の約10倍(2021年度)。企業のフードドライブ\*や県単位の協議会による配分等が増えました。寄付者へお礼状や食べている様子の写真を送ったり、寄付者が分かるように食品を提供する工夫も行っています。食品保管や品質管理面の協力等、寄付以外の支援もあり、助かっています！”

\*家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、それらをまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動



企業から借りている倉庫。空調や光熱費の負担などの支援やこども食堂の開催協力も。

ふくおか筑紫フードバンク → <https://chikushifoodbank.net/>



こども食堂等の団体が一堂に集まり、寄付食品を受け取る。月1回、協力団体の配送センターで実施。

### 食品のお届けまでの作業は？

“食品の寄付申し出があると、使用可能な倉庫や搬入日時、作業者等を調整し、納品後は賞味期限等の確認を行います。こうした作業が一番大変で、多種類・大量のフードドライブの食品は確認作業に時間がかかりますが、受け取り側に喜ばれています。”

### 課題や展望は？

“運送のための車・運転手の確保、ガソリン代、人件費等の費用が発生し、最低限の資金が必要ですが、収入が不安定です。継続には、活動への理解や資金の確保が重要です。コロナが落ち着けば、会食型こども食堂の開催も増えそうです。食べながら喋るといことは、本当に人と人との距離が縮まるんです！”



# 大豆の「部分浅耕—工程播種」の実証は良好な結果に

～ JA福岡大城みどりの食料システム戦略推進協議会～

同協議会では、大豆の適期<sup>は</sup>播種、作業の省力化とCO<sub>2</sub>排出量削減を目指し、令和4年度に部分浅耕—工程播種技術\*<sup>1</sup>を実証・普及する取組みが行われました。この度、令和4年度の実証の結果等に関する報告会が開催されましたので、その概要をご紹介します。同地域では、令和5年産も本技術を活用した生産と技術の普及・拡大を進める予定です。



報告会（令和5年5月10日）の様子

\*1 播種部分を浅く耕起すると同時に播種する技術。トラクタのロータリ爪の播種部分のみをカルチ爪にすることで浅く耕起される。荒起こしを行わず、降雨後も速やかに播種ができ、適期播種が可能。実演会（令和4年6月）はこちら↓  
<https://www.maff.go.jp/kyusyu/fukuoka/katudou.html#a220628>

\*2 慣行播種（事前荒起こし+耕起・播種の2工程）との比較

実証試験取組面積 18経営体 155ha

収量

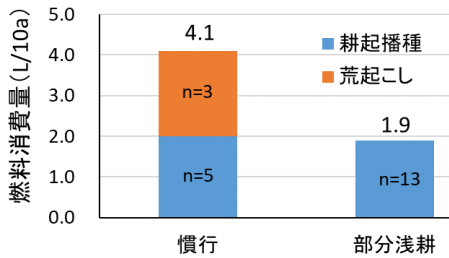
9～28%増収

（坪刈り収量結果より）

燃料消費量

2.2 L/10a削減

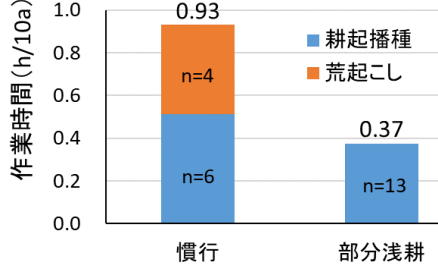
（慣行対比46%）



作業時間

0.56 h/10a削減

（慣行対比40%）



7月下旬播種



7月10日播種

生育期間の様子（8月下旬）

図・写真(生育期間の様子)：JA福岡大城みどりの食料システム戦略推進協議会様よりご提供



## 「みどりの食料システム戦略」研究会(5/17)が開催されました

JAグループ福岡主催の第3回研究会（座長：九州大学 福田 晋 理事・副学長）が開催され、福岡県拠点も出席しました。今回は、①福岡県からみどりの食料システム法に基づく県計画（本年3月策定）\*<sup>1</sup>の概要や福岡県ワンヘルス認証制度、②実践的な有機農業（BLOF理論）の学びの場を提供する(株)アグリガーデンスクール&アカデミー（朝倉市）\*<sup>2</sup>からその活動内容や今後の展望、について講演があり、出席者との間で質疑・意見交換を行いました。

最後に主催者から、戦略について「これからは具体的な取組みを始める段階に入った」として、次回の研究会では課題解決につながる取組事例や消費者向けのPRの在り方を検討する、との方向が示されました。



研究会の様子(5月17日)

\*1 福岡県環境負荷低減事業活動の促進に関する基本的な計画

→ <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/midorikeikaku.html>

\*2 福岡県拠点だよりにてご紹介

VOL.39 → <https://www.maff.go.jp/kyusyu/fukuoka/attach/pdf/dayori-37.pdf>

VOL.44 → <https://www.maff.go.jp/kyusyu/fukuoka/attach/pdf/dayori-43.pdf>

【お問合せ先】

九州農政局福岡県拠点地方参事官室

〒812-0018 福岡県福岡市博多区住吉3-17-21 TEL 092-281-8261（代表）

<https://www.maff.go.jp/kyusyu/fukuoka/index.html>

